

はじめに

平成19年9月、東北地方北部に停滞した秋雨前線と、台風11号から変わった温帯低気圧の影響で、17日未明から雨が降り始め、18日明け方まで降り続けました。特に、岩手県北西部で記録的な大雨となり、明治橋上流域では流域平均2日雨量が208mmという戦後最大の降雨となりました。

この影響により、北上川の水位は全川にわたり上昇し、館坂橋、紫波橋、朝日橋、男山、桜木橋、諏訪前の水位観測所では氾濫危険水位を超過、中でも紫波橋水位観測所は計画高水位に迫る水位を記録しました。

岩手県内では死者2名、床上・床下浸水家屋が542世帯、農地冠水2,994ha、避難者約1,630名となり、平成14年7月洪水以来の大規模な洪水被害となりました。

北上川の治水対策は、昭和22年のカスリン台風や、翌年に発生したアイオン台風を契機に計画が見直され、これまで主に5大ダムの建設や一関遊水地事業、市街地や都市部の堤防整備などが進められました。カスリン台風からちょうど60年という節目の年に発生した今回の洪水では、上流部でカスリン台風を上回る降雨を記録したにもかかわらず、これらの施設が大きな役割を果たし、北上川沿川の壊滅的な被害を回避することができ、改めて、治水施設整備の重要性を実感させられました。

一方で、5大ダムや一関遊水地の建設地域においては、水没に伴う移転など多くの犠牲を余儀なくされていることも事実であり、移転者をはじめとする関係者の方々の理解と協力により、流域全体の安全が確保されていることを忘れてはならないと思います。

今回の洪水では、堤防整備が遅れている中流域において、家屋等の浸水や収穫直前の農地が冠水するなど大きな被害が発生していることから、今後はこれまで以上に上下流の地域住民と一体となって、治水対策を進めていく必要があります。

この「北上川上流水害写真集」は、今回の洪水の気象・出水状況と水防活動などの記録をとりまとめたものであり、本書がこの洪水被害を後世に伝えるとともに、流域全体で情報を共有し、今後の河川整備、地域住民や行政機関の防災体制の強化、水防活動などに活用されることを期待しております。

最後に、今回の洪水対応並びに本書編集に当たり、ご協力をいただいた岩手県、北上川流域沿川市町村、報道関係、盛岡地方気象台はじめ関係各位の皆様にご感謝申し上げます。

平成20年3月

国土交通省 東北地方整備局

岩手河川国道事務所長 山本 聡

平成19年9月17日洪水
北上川上流水害写真集

● 目次 ●

はじめに…………… 1

洪水の記録

- 1.洪水の概要…………… 4
- 2.気象観測記録…………… 8
- 3.出水記録…………… 12
- 4.ダムによる洪水調節…………… 21
- 5.治水事業の検証…………… 25

空から見た洪水状況

空から見た洪水状況…………… 29

各地の出水・被害状況

- 1.各地の出水状況…………… 106
- 2.岩手県の被害状況…………… 160
- 3.管内河川被害状況…………… 162

予警報・水防活動

- 1.洪水予報・気象予報…………… 164
- 2.水防活動…………… 168
- 3.河川情報の提供…………… 172

水害新聞記事…………… 176

巻末資料 北上川の浸水実績